

Dr.ひろみの

ハッピー子育て

か る た



みなさん、こんにちは！先月、福山雅治の「ブラックショーマン」という映画を観ました。「国宝」もそうでしたが、俳優さんは短期間にプロ並み（少なくとも素人にはそう見える）にマジックや歌舞伎の技術を習得して、大変感銘を受けました。福山さんと同い年の私は、凡人の私も時間さえかけたら、何かできるのかもしれないと元気をもらいました。でも苦行は続かないので、できたら楽しそうなウクレレやってみようかな。そのうちバンド組んで、演奏会なんかできたらいいなあ。講演中にウクレレで伴奏するから、みんなで歌ってみるとか。夢は広がる～



☆読み手☆
鈴木 裕美（すずき ひろみ）
香川大学医学部 小児科専門医

52

いい訳すると
逆にマイナス
誠意とは 相手のこころに
とどき 動かす言葉



51

あやまる時に
ひとこと言いたくなる
自分の事情
相手の落ち度



今月のかるた解説

生活の中で謝る場面はたくさんあります。子どもに「お母さんって私の話、聞いてくれないよね」とか、「お父さん、勝手に人の部屋に入ってこないでよ!」とか言われたときはどうですか。素直に謝れますか。つい、余計なひとことを言ってしまうませんか? 「忙しい時に話しかけるからよ」、「大事な話って言わないからよ」、「急ぎの用事があったんだから仕方ないだろう」など、自分の事情や相手の落ち度を責めてしまいがちです。私自身も娘に「これ、私が悪いの?」と言われて、はっとしたことがありました。謝る時に言い訳をセットにすると、子どもは悪くないのに怒られたと感じてしまいます。

謝罪の言葉で「(あなたの気持ちに) 気が付かなくてごめんなさい」というのは最強です。この一言で気持ちをうまく伝えられなかった相手ではなく、気持ちを汲み取ることができなかった自分に非があるのだと責任を背負ってくれる覚悟を表します。子どもは大人に対してうまく説明できないし、大体自分の気持ちもよくわからないものです。だからその未熟さを責めることなく、言い訳もせず、理解できなかった大人側の責任にする。そんな優しい謝罪をくれる大人なら、子どもも話したくなりますよね。

